

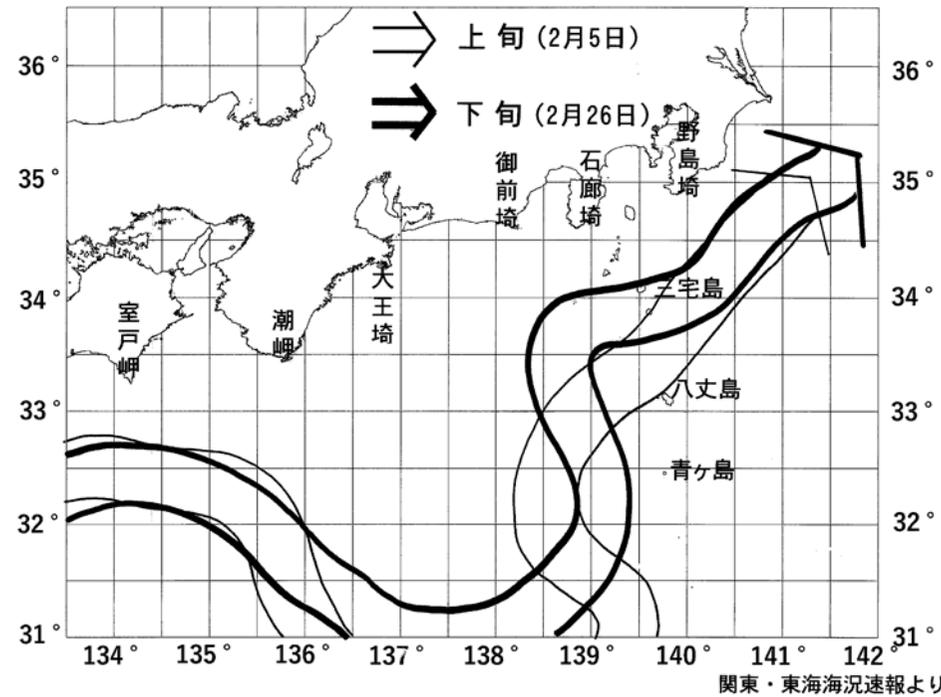
# 漁海況月報

令和6年2月1日

No. 2 ~2月29日

静岡県水産・海洋技術研究所  
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値\*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	15.4	15.4	15.4	16.4	15.5	15.0
	1.3	0.7	1.1	2.1	1.4	0.9
中旬	15.6	15.8	15.7	16.0	15.7	15.9
	1.8	1.4	1.5	1.5	1.3	1.7
下旬	14.9	15.9	15.6	16.1	16.1	15.7
	1.1	1.4	1.5	1.8	1.9	1.7
月	15.3	15.7	15.5	16.2	15.8	15.5
	1.4	1.1	1.4	1.8	1.5	1.4

\*平年値：過去30年(平成3年~令和2年)平均値

## 【黒潮流路】

2月を通じてA型で、大王崎沖で大きく離岸した後、石廊崎沖に北上する流路となった。

上旬は大王崎沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.0°N付近から石廊崎沖33.0°NまでS字状に北上した後、三宅島~八丈島間を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮北縁から遠州灘、大島東西水道に向けて見られた。

中旬は大王崎沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.0°N付近から石廊崎沖34.0°Nまで北上した後東進し、三宅島付近を通過して東北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘に向けて、石廊崎沖の黒潮北縁から大島西水道に向けて見られた。

下旬は大王崎沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.0°N付近から石廊崎沖34.0°Nまで北上した後東進し、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘に向けて、石廊崎沖の黒潮北縁から駿河湾、大島西水道に向けて見られた。

## 【沿岸域水温】

上旬は雲見で「高め」、それ以外の地点で「やや高め」であった。中旬は稲取、沼津で「やや高め」、伊東、下田、雲見、焼津で「高め」であった。下旬は伊東、稲取で「やや高め」、下田、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。

## 【竿釣カツオ】

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年9.5トン)。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
R6年2月上旬	-	-	-	-
中旬	-	-	-	-
下旬	-	-	-	-
R6年2月計	-	-	-	-
R5年2月計	9.5	1	9.5	539
R4年2月計	1.8	2	0.9	278

**【定置網】**

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は651.3トンで、前年(1139.1トン)の57%、平年(251.8トン)の2.6倍であった。また、1か統当たりの水揚量は93.0トン(前年:162.7トン、平年:36.0トン)であった。水揚量の多い漁場は、伊豆山漁場(179.3トン、マイワシ、マアジ、さば類)、次いで古網漁場(166.7トン、マイワシ、ブリ、さば類)であった。

多獲された魚種の水揚量は以下(表)のとおりで、マイワシは479.7トンで、前年比44%、平年比7.1倍で、前年を大きく下回ったが昭和57年以降では2番目に多い漁獲量であった。さば類は59.9トンで、前年比2.4倍、平年比2.0倍であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは15.3トンで、前年比87%、平年比2.2倍、ゴマサバは44.6トンで、前年比6.1倍、平年比1.8倍であった。なお、さばっこは9.5トン(表記載以外)で、前年比7.0倍、平年比21.6倍で、昭和57年以降では最も多い漁獲量であった。ブリは27.4トンで、前年比6.2倍、平年比1.5倍で、銘柄ぶりが主体であった。マアジは19.5トンで、前年比9.1倍、平年比1.4倍であった。マルソウダは8.7トンで、前年比17.3倍、平年比20.3倍で、昭和57年以降では2番目に多い漁獲量であった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、マイワシでは伊豆山漁場が35%(167.0トン)、古網漁場が27%(131.6トン)、川奈漁場が16%(78.0トン)、北川漁場が15%(70.5トン)、さば類では川奈漁場が31%(18.7トン)、北川漁場が23%(13.9トン)、富戸漁場が17%(9.9トン)、古網漁場が16%(9.7トン)、ブリでは古網漁場が48%(13.2トン)、川奈漁場が46%(12.6トン)、マアジでは古網漁場が28%(5.5トン)、伊豆山漁場が22%(4.2トン)、北川漁場が20%(4.0トン)、川奈漁場が18%(3.4トン)、マルソウダでは北川漁場が44%(3.8トン)、富戸漁場が32%(2.8トン)であった。

\*平年:昭和57年~令和4年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マイワシ	479.7	0.44	7.08	伊豆山、古網、川奈、北川
さば類	59.9	2.42	2.03	川奈、北川、富戸、古網
ブリ	27.4	6.16	1.52	古網、川奈
マアジ	19.5	9.09	1.35	古網、伊豆山、北川、川奈
マルソウダ	8.7	17.27	20.26	北川、富戸

**【サバたもすくい・棒受網】**

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は大島千波及び利島に形成された。水揚量はマサバ65トン(前年同月比58%)、ゴマサバ157トン(前年同月比35%)であり、1隻当たり水揚量はマサバ3.1トン(前年同月比89%)、ゴマサバ7.5トン(前年同月比54%)であった。

1kg当たり平均単価は、マサバは260円で前月(245円)を上回り、前年同月(290円)を下回った。ゴマサバは202円で前年同月(205円)並となり、前月(217円)を下回った。

漁獲物の体長組成は、マサバ、ゴマサバともに34cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		平均単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R6年2月上旬	2	95	5	9	0.3	10.5	252	198	大島千波
中旬	18	27	3	5	3.6	5.4	206	173	大島千波、利島
下旬	44	36	5	7	6.3	5.1	282	234	大島千波
R6年2月計	65	157	13	21	3.1	7.5	260	202	大島千波、利島
R5年2月計	112	446	15	32	3.5	13.9	290	205	大島千波
R4年2月計	488	37	8	17	28.7	2.2	121	100	利島

\*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

\*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

**【まき網(いわし類)】**

マイワシの水揚量は、沼津港では34.1トン(前年同月比5%、平年同月比4%)、小川港では36.9トン(前年同月13%、平年同月比9%)、伊東港、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港ともに水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは479.7トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。

\*平年:過去5か年(平成31~令和5年)平均値

**【調査船駿河丸の動向】**

2月6日 ~ 2月7日 地先定線観測調査 (2日間)  
2月9日 ドックへ回航 (1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ  
 トップページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>  
 海洋情報のページ……… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>  
 右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、  
 関東・東海海況速報等を見ることができます。

